

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取り組み
★たくさんの思いやりあふれるまち 川尻！	笑顔で気配り・声かけ  思いやりある目配り・見守り・声かけ	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化社会の進行</li> <li>高齢者人口の増加（高齢化率31.2%R5.8月）</li> <li>独居、孤立化、老々世帯の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍による体力低下</li> <li>認知症高齢者の対応</li> <li>独居高齢者世帯の割合が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老人会など地域コミュニティへの参加</li> <li>サロンや老人会のPR</li> <li>既存の地域活動に様々な運動の機会を設け、フレイル予防の取り組みを行う</li> <li>日頃からの地域住民へ声かけを行い、既存の見守り事業の啓発</li> <li>高齢者の情報を共有できる地域組織や関係機関と定期的な情報交換の場をもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃からの声かけ、挨拶の啓発</li> <li>サロンや老人会への加入促進</li> <li>地域の見守り活動・お互いさまの関係づくりの推進</li> <li>サロン、百歳体操の参加促進</li> <li>各種健康講話、出前講座の実施</li> <li>リハビリ職の派遣（百歳体操指導・体力測定等）</li> <li>認知症サポーター養成講座の実施</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で生活している障がい者の把握。</li> <li>身寄りのない単身障がい者の緊急時の対応（安否確認）</li> <li>障がいに関する理解啓発。</li> <li>相談先がどこか分かりづらい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいや障がい福祉に関する情報や知る機会が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基幹相談支援センターから地域に向けた情報提供や研修を実施。</li> <li>支援が必要な方の早期発見</li> <li>障がい者の地域コミュニティへの参加</li> <li>相談内容に合わせた相談窓口の明確化と情報提供</li> <li>障がい福祉や障がい者への災害対応に関する研修等による、校区住民への周知</li> <li>災害時要援護者避難支援制度への理解促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者相談支援センター等の関係機関との連携</li> <li>障がい者サポーター研修や障がいに関する情報提供を実施</li> <li>地域の障がい者施設と関連した行事等。</li> <li>障がい者相談支援センター等の関係機関との連携。</li> <li>相談内容に応じた福祉関係の相談窓口の校区版一覧の作成</li> <li>災害時要援護者避難支援制のPR及び登録促進</li> <li>障がい者が地域コミュニティへ参加しやすい体制作り</li> <li>日頃からの声かけ、挨拶の啓発</li> <li>自治会と民生委員、地域の各種団体との日頃からの連携</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の避難の支援体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報保護により実状把握が困難</li> </ul>			
	みんなで育てよう	子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども、子育て世帯と地域との交流の機会の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で赤ちゃん訪問の中止や、気軽に集える場所が減った。</li> <li>子育て世帯の転入家庭が増加し、周りに相談者や協力者のいないケースがある。</li> <li>新しい子育て世代が増えているエリアと集いの場が開催されているエリアが離れている。</li> <li>PTAの未加入が増えてきている。</li> <li>スマホやタブレットに依存しがちな環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども食堂の利用</li> <li>児童育成クラブでの悩み相談</li> <li>子育て世帯の負担軽減</li> <li>子育て世帯の地域活動への参加</li> <li>子育て支援ネットワークを通して、子育て世帯の現状や課題を関係機関と共有</li> <li>学校行事や保育園等の活動を通して、保護者のつながりをつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども食堂の利用促進</li> <li>親同士の情報交換会の開催</li> <li>自治会等との連携</li> <li>世代間交流の機会創出</li> <li>日頃からの声かけや見守りの実施</li> <li>赤ちゃん訪問や子育てサークル、児童館といった</li> <li>親子のふれあいの場を活用し、地域活動の啓発を行う</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども、子育て世代の見守り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこに子どもがいるかわからないという声が聞かれた。</li> <li>新興住宅地は核家族が多い。</li> <li>複数の課題や育児負担を抱えている家庭もある。</li> <li>コロナ禍でサークル等地域活動への参加機会の減少</li> <li>共働き世代が多くなってきている。</li> <li>複数の課題や育児負担感を抱える家庭もある。</li> </ul>		
	お互い助け合う	災害・防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所運営マニュアルの整備</li> <li>発災時の体制整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所の施設利用計画など避難所運営マニュアルが未策定</li> <li>要援護者の安否確認について自治会長と民生委員や地域の各種団体との連携に課題がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時要援護者避難支援制度への理解促進</li> <li>日頃からの声かけ、見守り、挨拶で支援が必要な方を早期発見</li> <li>避難所運営マニュアルの策定</li> <li>熊本市ハザードマップ及び地域版ハザードマップの周知</li> <li>各家庭でのマイタイムライン作成</li> <li>相談内容に合わせた相談窓口の明確化、周知</li> <li>相談窓口の情報提供および関係機関への情報共有をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時要援護者避難支援制のPR及び登録促進</li> <li>日頃からの声かけ、挨拶の啓発</li> <li>校区防災連絡会及び避難所運営委員会との連携</li> <li>自治会と民生委員、地域の各種団体との日頃からの連携</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会参加と健康維持</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>少子高齢化により後継者不足が深刻化している</li> <li>定年年齢の引き上げによる担い手不足</li> <li>転入した若い世代が地域活動に関心が薄い</li> <li>空家率が1.93%と市全体（1.32%）より高い（2018年11月末時点、空家対策課より）</li> <li>コロナ禍を機に交流の場が減っている</li> <li>特定健診の有所見結果で肥満、糖尿病予備軍が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な世代の住民が交流できる場をつくる</li> <li>地域活動の負担軽減</li> <li>子育てサークル、サロンの継続</li> <li>地域行事における健康につながるイベントの実施、調整</li> <li>個人の健康維持が校区全体の健康づくりや活性化につながるよう啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サロンや子育てサークルを活用し、多世代交流を図る</li> <li>地域活動支援</li> <li>市空家対策課との連携</li> </ul>	